

先進産業都市豊田における地域秩序の動揺(2)

—女性にみるまちづくり活動参加の停滞と諸要因—

○愛知県立芸術大学 中根多恵
名古屋大学 丹辺宣彦

1 目的

本報告に先立って報告される「先進産業都市豊田における地域秩序の動揺(1)」では、現在の豊田市では、かつての高いまちづくり活動参加水準（丹辺・岡村・山口編 2014）の規定要因であった地域的紐帯が弱体化し、従来の地域秩序が揺らいでいることが示された。これをふまえ、本報告では、まちづくり活動参加をとりまく社会的状況にとりわけ大きな変化がみられた女性に着目し、まちづくり活動参加の停滞要因をジェンダーの視点から解き明かす。

2 方法

本報告は、2015年8月に実施した質問紙調査「豊田市のまちづくりと市民活動Ⅱ」（3000票配布、有効回収率45.1%）によるデータに依拠し、女性サンプル（412票）に特化した分析を2009年データと比較しながらおこなう。

3 結果

分析の結果、まず、2009年データと比較して、30代でのフルタイム率の上昇や50～60代での離別・死別率の上昇などが確認でき、かつては近代家族的特徴をそなえていた豊田市女性をとりまく社会的状況が少しずつ変化しつつあることが明らかになった。それに加えて、女性のまちづくり参加率の大幅な低下と、40～50代層を中心に地域的紐帯の弱体化も確認された。2009年データの分析結果では、地域的紐帯がまちづくり活動に有意な促進効果をもっていたのにたいして、この地域的紐帯の弱まりにより、まちづくり活動参加への近所づきあいの効力もなくなっていた。また、15歳以下の子どもの有無や社会貢献意欲の程度がまちづくり参加に有意な促進効果をもつことは2009年データと同様であったが、その一方、2009年データの分析でまちづくり参加への効果が確認できた「専業主婦であること」や「配偶者がトヨタ自動車勤務であること」といった条件は、その効力をもたなくなっている。さらに、本分析では、25歳から34歳までの若年層における社会貢献意欲や地域的紐帯の弱さがまちづくり活動参加を抑制していることが明らかになった。

4 結論

かつては性別役割分業構造のもと、時間的・経済的にゆとりのある専業主婦層を中心に「性別役割分業の社会化」としてのまちづくり参加がみられていたが、雇用の流動化や現代家族化などの社会学的変化による影響をうけることで、従来の地域秩序における女性の位置が不安定になり、地域社会での活動参加から遠ざかってしまっていると考えられる。

文献 丹辺宣彦・岡村徹也・山口博史編, 2014, 『豊田とトヨタ—産業グローバル化先進地域の現在』, 東信堂.